

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 4 区分

【発行日】平成 18 年 2 月 16 日 (2006.2.16)

【公表番号】特表 2005-513275 (P2005-513275A)

【公表日】平成 17 年 5 月 12 日 (2005.5.12)

【年通号数】公開・登録公報 2005-018

【出願番号】特願 2003-556576 (P2003-556576)

【国際特許分類】

C 2 3 C 22/53 (2006.01)

C 0 8 K 5/00 (2006.01)

C 0 8 L 101/02 (2006.01)

C 2 3 C 18/16 (2006.01)

C 2 3 C 22/56 (2006.01)

C 2 3 C 28/00 (2006.01)

【F I】

C 2 3 C 22/53

C 0 8 K 5/00

C 0 8 L 101/02

C 2 3 C 18/16 A

C 2 3 C 22/56

C 2 3 C 28/00 C

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 12 月 22 日 (2005.12.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

b) 成分 B としての、ポリマー (成分 A) を溶解し、分散させ、懸濁させ、または乳化させるのに適した水または別の溶媒、

c) 場合により、成分 C としての、界面活性化合物、分散剤、懸濁剤、および / または乳化剤、

を含む金属表面を処理するための、または、プラスチック表面上に金属または合金を堆積させるための組成物であって、該組成物が、

a) 成分 A としての、

a a) 成分 A a としての少なくとも 1 種のアミノ基含有ポリマー、

a b) フェノール、キノン、またはフェノール性構造単位またはキノノイド構造単位を有する芳香族化合物である、成分 A b としての少なくとも 1 種の芳香族化合物、

a c) 場合により、成分 A c としてのアルデヒド、

の反応により構成される少なくとも 1 種のポリマー、

を含むことを特徴とする組成物。

【請求項 2】

前記成分 A、成分 B、および場合により成分 C の他に、

d) 成分 D としての、遷移金属のカチオン、遷移金属のオキソアニオン、フルオロメタラートまたはランタノイドを基礎とした少なくとも 1 種の塩、酸、または塩基、および / または、

e) 成分 E としての、リン酸、硫酸、スルホン酸、硝酸、フッ化水素酸、および塩化水素酸からなる群から選択された少なくとも 1 種の酸、
を含む、金属表面を処理するための請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

さらに、

f) 成分 F としての、少なくとも 1 種の別の腐蝕防止剤、および / または、

g) 成分 G としての、Ce、Ni、Co、V、Fe、Zn、Zr、Ca、Mn、Mo、
W、Cr、および / または Bi の化合物、および / または、

h) 成分 H としての、別の助剤および添加剤、

を含む、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

前記成分 A、成分 B、および場合により成分 C の他に、

i) 成分 I としての、少なくとも 1 種の金属酸化物および / または金属塩、

j) 場合により、成分 J としての少なくとも 1 種の錯化剤、

を含む、請求項 1 に記載の金属表面を処理するための、または、プラスチック表面上に金属または合金を堆積させるための組成物。

【請求項 5】

さらに、

k) 場合により、成分 K としての、少なくとも 1 種の酸またはその酸のアルカリ金属塩またはアルカリ土類金属塩、および、

l) 場合により、成分 L としての別の付加物、

を含む、請求項 4 に記載の組成物。

【請求項 6】

金属表面を、

aa) 成分 Aa としての少なくとも 1 種のアミノ基含有ポリマー、

ab) フェノール、キノン、またはフェノール性構造単位またはキノノイド構造単位を有する芳香族化合物である、成分 Ab としての少なくとも 1 種の芳香族化合物、および、

ac) 場合により、成分 Ac としてのアルデヒド、

の反応により構成されるポリマー (成分 A) と接触させることを含む、金属表面を処理する方法。

【請求項 7】

金属表面を請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の組成物と接触させることを特徴とする、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

a) 場合により、金属表面を洗浄して油、脂肪、および埃を除去する工程、

b) 場合により、水で洗浄する工程、

c) 場合により、請求項 1 に記載のポリマー (成分 A) の存在下または不存在下で酸洗いして錆または他の酸化物を除去する工程、

d) 場合により、水で洗浄する工程、

e) 請求項 1 に記載のポリマー (成分 A) の存在下で金属表面を処理する工程、
を含む、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】

さらに、

f) 場合により、水で洗浄する工程、

g) 場合により、請求項 1 に記載のポリマー (成分 A) の存在下または不存在下で後処理する工程、

を含むことを特徴とする、請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

金属表面を請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の組成物と接触させることを特徴とする、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 11】

前記アミノ基含有ポリマーが、ポリエチレンイミン、ポリビニルアミン、ビニルホルムアミド - ビニルアミンコポリマー、ポリリシン、ポリアミノスチレン、ポリカルボキシラートのアミノ基含有誘導体、ポリアミンとカルボン酸および/またはスルホン酸との反応生成物、およびポリアミンのカルボキシメチル化物からなる群から選択されることを特徴とする、請求項 1 ~ 5 のいずれかに記載の組成物。